

令和4年10月1日 信者心の道勉強会

「代神 人生の手本」

神 示

戦前・戦後 時代の大きな流れ変化に生きて

人生の真実「真理」に気付きを得た その人が供丸齋

神の命めいを受けて

戦後の日本にほんに 神示社会を世に伝える神所ひらを開いた

その真実があればこそ

今日今日 人類は 「人生の真理」を学び

「希望の光みち」を自ら歩む時代ことがかなう

信者に申す

供丸齋の救世人生を見詰め直し

その「心の歩み」を 我が心人生に重ねるべし

人生の真実が鮮明に見えて

「正道」を知り

「道」の真理に「生きる」思いが深まる

「真理」が 信者の人生に悟りを深め

ますます運命に重なる人生を 求める思いを強くする

「道」の真理真実に生きること

人間人間人は皆 「希望の光みち」を通し 開運人生を歩み抜ける

「希望の光みち」が通る 神魂の時代に生きる真実を

気付人々けぬ人も多い

真理なき知識を頼り 自ら「道」欠き 外し

悩み 苦しむ因が ここにある

信者は 「教え」で心重なる家庭を

家族でつくる努力をする

そこに 喜び多く 生きがいを手にする

家族の人生が始まってゆく

神の深いお計らいの中、戦前、戦後の混沌こんごんとした社会において、供丸齋先生は真実を見失わず、道理にかなう生き方を貫かれました。そして、神から尊い命めいを受け、大山祇命神示教会を設立されました。今、神示教会に人類が真実救われる希望の光みちが開かれているのは、その確かな礎があったからです。

半世紀以上前のこととはいえ、供丸齋先生が胸に抱かれた救世の思いを、一人一人が自ら重ね、見詰め直してみるようにと、神は促されています。もし自分なら、どう考え、行動するかです。

今の時代を見据えて土台固めに尽くされた尊い足跡を感じれば、もっと教えに沿って生きようとする心が高まるでしょう。そして、自分のできることで社会に貢献する熱い思いも膨らみます。

神の教えが身に付くほど、社会貢献を実現するには自分に与えられた力を生かすことと分かります。そして、運命に重なる生き方をしようと思うはずです。

今は、道を守って生きれば、希望の光みちが通って必ず救われます。開運へと真っすぐに歩みを進められるのです。ところが、希望の光みちが通る神魂の時代の価値に気付けない人々も多いと、神は嘆かれています。社会にあふれる知識を頼り、欲に流され、道を外して、悩み、苦しみを抱えているのです。

希望の光みちを通すには、神の教えの神、仏、人の道を守らなくてはなりません。すなわち、人として正しい心で生きるところに、希望の光みちが通るのです。

特に、家族で道を守り、心の重なる家庭をつくるのが大切です。狭いながらも楽しい我が家と、供丸齋先生は繰り返して説かれました。それが仕合せの基であり、そこから喜び多く、生きがいにあふれた人生が始まるのです。

まだ希望の光みちが開かれていない時代に供丸齋先生が求められていたものに、希望の光みちを歩む心の基本があります。すなわち、物や形にこだわらず、常に心を見詰めて生きることです。代神を人生の手本に、教えに沿って生きるのです。

「代神 人生の手本」

神 示

使者供丸齋――

神の命を受け 教会の基を築かれたお方

その功績をたたえて 今日代神「供丸齋命」

信者は 代神の御名唱えて

心救われる真実に 気付くべし

本来 人の心は 「心の道」に受け継がれ 変えられぬもの

性格 気質・体質として その心に表れる

人間が 「心」悩み 苦しみ 「人生」に迷うのも

実体に表れる質にある

なれど 士・供丸齋の「救世の歩み」を知り

その「心」を学ぶことで 人間は質を高められる

目指すべき「人生の手本」を得ること

人間は 目標を持ち 努力ができる

信者は 「教え」に悟りを深め

人生の手本を身近に感じること

ますます正しい祈願ができる

――「希望の光」を自ら歩み

「真実の光」を手にするために

今日の神示教会が存在する――

神が使者供丸齋に求めた環境を

信者は手にし 身を置いている

後 信者一人一人が 「教え」を学び

「真理」に悟りを深め

自ら「希望の光」を通す人生を歩む

この決意が 「神の心」に重なるのである

供丸齋先生は、神の命を受けて、神示教会の揺るぎない土台を築かれました。無なるところに神の实在と神の教えを示し、直使に神魂の運命が宿されている真実が明かされるように導かれたのです。

そして、神から託された重責を無事果たされ、今は代神としてお守りくださっています。そのような供丸齋先生の存在を感じ、感謝の思いを深めると、正しい心の動きができ、実体が抑えられます。

人は、代々心の道に実体を受け継ぎながら、生きています。実体とは、気質、体質、性格などです。物事の捉え方、感じ方、考え方、生き方、まさに品性とも言えます。その家に流れる実体は、容易に変えられるものではありません。

それどころか、悩み、苦しみ、迷いを生むものにもなります。しかし、神の教えで心の質を磨き、高めていくと、心の道に受け継がれた実体が、神のお力で修正されていきます。

そのとき、人生の手本とするようにと神が促されているのが、供丸齋先生の救世の歩みです。『真実への道光の足跡』などから供丸齋先生の心の姿を知り、そこに流れる思いを読み取ることで、人は自らの心の質を高めていきます。

供丸齋先生が何を見詰め、救世の道を生き抜かれたのか、それを感じ、受け止められれば、神示を真剣に学ぶ気持ちにもなります。人生の手本を感じ、的確な目標を持って努力できるよう。言い換えれば、教えを学ぶ中から多くの気付きを得て、祈願とともに実践に努め、生き方に取り入れていくのです。そこに、本来変えられない実体さえ、高めていくことができます。

供丸齋先生が神の指示を受けて開かれた神示教会は、供丸齋先生の神魂の運命によって救いの道が確立し、人類を永遠に救う教会となりました。一人一人が希望の光を歩み、悔いのない人生を完成させ、真実の光を手に行ける唯一無二の環境です。神の教会に籍を置いた以上、日々希望の光を通す決意を持って、教えに生きていきましょう。